

正規保育士で安心の保育を

2021年度の保育所入所申し込みは、62名が保留で、その内、待機児童が3名となっています。「保育園落ちた」のツイッターで待機児童が大きくクローズアップされ、安倍政権時代に、園庭はなくてもよい等、様々な設備面での規制緩和を行いました。結果、3歳までの小規模保育施設の急増です。

現在、鴻巣市では公立保育所8園、民間保育園8園の他に12園の小規模保育園がありま

す。6月議会の条例改定はこの小規模保育園の保育士配置の緩和です。子育て支援員研修修了者・幼稚園教諭や小学校教諭などの資格があれば保育ができるというものです。保育の公定価格の見直しを行い正規の保育士を基本に運営ができるようにすることが、何よりも保育の安心・安全につながるものです。

保育の後退となる条例改定に反対をしました。

教育現場に密接するGIGAスクールサポーターは直接雇用で

鴻巣市では小中学校の児童生徒に1人1台のパソコンを貸与し、4月から本格的にICT教育が始まりました。教育現場のICT環境の整備に反対するものではありません。パソコンを使って知りたい情報を自ら探り、個々の子どもにあった学習をきちんと保障することは大切です。現在、教員以外に、専門のICT支援員5人が27校の小中学校を廻り児童生徒、そして教員に支援を行っています。

さらに、GIGAスクールサポーター1名を9月から3月まで配置するための補正予算が議案となりました。ICT支援員が対応できない事態に必要という説明です。7カ月間で754万7千円の「業務委託」です。直接雇用をして教育現場に出向いた方が市教委・学校との連携が取りやすいと考えます。

「業務委託」先が固定化される恐れもあることを指摘し、補正予算に反対をしました。



「原発ゼロ」「火力発電廃止」の明記がない

「2050年のカーボンニュートラルの実現を推進する意見書」は反対

鴻巣会などから「2050年のカーボンニュートラルの実現を推進する意見書」が出されました。日本共産党は、「原発ゼロ」の明記がないこと、「火力発電」について、廃止の期限を定めない取り組みで、2050年の目標が達成できるか疑問であることを指摘し反対しました。

このす民報

議会報告版

2021年7・8月号 第420号

日本共産党鴻巣市委員会の見解を紹介いたします。

日本共産党鴻巣市議団
竹田えつ子 すわみつえ
☎542-7072 ☎507-4151
FAX542-7101 FAX596-9440

★政務活動費で議会報告を作成しています。

新型コロナ収束に全力を!

迅速・安全なワクチン接種と大規模な検査を

菅政権は、国民には自粛と休業を求めても、科学的知見に基づいたコロナ対策を何一つ行ってきませんでした。ワクチン接種を早めると大号令をかける一方で、6月下旬からはワクチンの供給が足りないなど、国の混乱した対応に怒りの声が上がっています。

コロナ収束の目途が立たないどころか感染が拡大しています。東京五輪が開催され、人流が多くなることでさらに感染が広がることを多く

の方が懸念をしています。

日本共産党は、「コロナ封じ込め」を戦略目標にすえ①ワクチンの安全・迅速な接種、大規模検査、十分な補償と生活支援の3本柱で対策を強化する②医療機関への減収補填、医療体制への支援強化③東京五輪の中止を求めています。科学的知見に基づいた対応こそ必要です。

命が大事!「東京五輪は中止を!」

「東京オリンピック・パラリンピック開催の中止を求める意見書」を、日本共産党・おりづる・やさしい改革が提出者となり6月議会で審議しました。賛成(竹田えつ子・すわみつえ・菅野博子・加藤久子各議員) 少数で否決されました。

五輪開催をすれば、海外から関係者が訪れます。水際対策はすでに穴だらけであることも明らかになっています。さらに感染力の強いデルタ株などの感染拡大が懸念されています。アスリートも犠牲者が増えることを望んでいないと思います。「命を守れ!コロナ収束に全力を!

東京五輪は中止を!」引き続き声を上げていきましょう!

中学生のオリンピック観戦は中止に

6月16日教育委員会から、埼玉スーパーアリーナで行われるバスケットボールの観戦(7月27日、中学生200人)を中止したことが報告されました。

日本共産党は、子ども達の五輪観戦中止を求めており、教育委員会の対応を評価しました。

法律・生活相談

生活相談はいつでもどうぞ。法律相談は毎月第4金曜日13:30~15:00日本共産党鴻巣市委員会事務局法律相談の場合あらかじめ予約をお願いします。問い合わせは竹田えつ子、すわみつえ



竹田えつ子議員

地球環境にも人にもやさしい鴻巣市に

生理の貧困対策として小中学校の女子トイレなどに生理用品を常備すること

生理の貧困対策として、小中学校の女子トイレなどに生理用品を常備し必要な人がいつでも使えるようにすることを求めました。

教育委員会は、これまでどおり、保健室で必要な児童生徒に直接手渡により、健康状態や家庭環境等を日頃から把握し、課題等の早期解決へとつなげていくと繰り返し答弁し、トイレに常備することには消極的でした。

「鴻巣駅東口にエレベーター設置を」

駅利用者の声を届け質問

「鴻巣駅をよくする会」では「東口にエレベーターの設置を・・・」と毎週署名活動に取り組み、約3000筆近くの署名が寄せられています。駅利用者の声を届けて質問しました。

市は、人に優しい街づくりを推進するうえで優先して取り組む必要があるとの認識を示しましたが、3月にJRと協議を行ったところ、新型コロナの影響で約5000億円の赤字が出ており JRは当面の間新規の設備投資が非常に難しいとしていると答えました。

JRには約2.9兆円近くの内部留保があることを指摘。市は、引き続きJRと協議していくとしました。

エレベーター設置実現の為にこれからも頑張っていきます。

「ゼロカーボンシティ宣言」を

地球温暖化を止めることは待ったなしの課題です。「ゼロカーボンシティ宣言」を行うことを求めて質問をしました。

市は、「宣言」に向けて、具体的スケジュールを検討していくと答弁しました。議会最終日に、今年度中に「宣言」を行う為に7.2万円(環境審議会開催)が予算化されました。

市民の声を生かした新ごみ処理施設を

ごみ分別の徹底は市民の協力が必要であり、分別が進めば、リサイクルへの方向に進みます。新たなごみ処理施設を造るにあたり、安養寺・郷地の地元だけでなく市民から意見を聞く考えがあるか質しました。

市はある程度事業の方向が決まってから公表していくとの対応でした。引き続き市民の声を聞くことを求めています。

他に鴻巣駅東口駅通り地区再開発事業での公金支出について質問しました。



すわみつえ議員

住民サービスの充実に向け職員体制の適正化を

「遅くまで職員が残っているようだけど」「窓口が混み合っていて待つことがある」など、市民の皆さんから市職員の働き方や住民サービスの在り方を心配する声があります。

時間外の勤務の実態は

市長は施政方針で「行政は最大のサービス業」と明言しています。住民サービスの充実、職員の心身の健康があつてこそです。

6月議会一般質問では、職員の年休取得・時間外勤務の実態、病休・休職の実態、パワハラ・セクハラの実態を質問の柱としました。

年次休暇を取らない(取れない?) 職場と時間外勤務の多い職場は、マイナンバーカード交付や小中学校適正配置の業務を扱う職場で共通していました。

パワハラ・セクハラの実態は

ハラスメントへの対応では、パワハラの実態は職員課が、セクハラの実態は女性を中心とした9名が相談機関となっています。昨年度の相談はゼロ件でした。厚生労働省が実施したアンケート調査では、3割の方が「相談しない」2割の方が「同僚に相談」となっています。内部機関では「相談しにくい」のではと質しました。

外部機関の相談室なども案内しているとの答弁でした。

病休・休職の実態は

病休取得者の急増、休職者の9割の方がメンタルヘルスが原因となっていることなどの実態があります。職員の心身の健康に市はもっと留意すべきだと思います。

業務量に見合った職員体制を、引き続き求めています。

《各年度で新たに休職した人数》 《30日以上病気休暇取得人数》

2016年度 5人(4人)	2016年度 14人
2017年度 3人(2人)	2017年度 15人
2018年度 2人(1人)	2018年度 10人
2019年度 5人(4人)	2019年度 14人
2020年度 12人(11人)	2020年度 30人

()内人数は精神疾患 注:休職者とは90日以上病休を取った者

介護保険の申請と利用は分かり易くしてほしい

質問 一人暮らしでも介助なく入浴できる方への「浴室清掃はヘルパーがしてはならない」という鴻巣市独自のローカルルールがあると聞いているが。

答弁 独自の取り決めはありません。ケアプランに理由等の記載は必要です。

質問 本年8月13日締め切りで埼玉県が特養ホームの公募をしている。前回のように白紙撤回が起きないように、当市の意見書は庁内の協議を行って提出すべき。

答弁 事業者から相談を受けた際には、まずは庁内で協議を行い意見書を提出します。

笠原地区から鴻巣中央小学校に通学する児童の安全は

昨年度は6名の児童を8人乗りの公用車で登校支援を教育委員会職員が行ってきましたが、今年度は16名の児童を業務委託された業者がバスで行っています。保護者から、「安全のために補助員をつけてほしい」と要望が寄せられていました。「スクールバス」としての運用ではないため個々の要望には対応しないとの答弁でした。

来年から「スクールバス」として本格稼働となります。引き続き「安全運行」を求めています。

本音がわかる
明日が見える

しんぶん 赤旗

●日刊紙/月3,497円
●日曜版/月930円

見本紙
お届けします

新型コロナ、政治、社会保障、経済、
...「本当のことが知りたい」
その思いにこたえる新聞です。
暮らしに役立つ情報も満載です。